

大正十四年國勢調査結果の概要

今次の調査は第一回國勢調査に於けると同じく現在人口の調査にして、大正十四年十月一日午前零時に帝國の或地域に在りたる者は、常住たると一時現在たるとの區別なく之を調査に加へ、假令常住者なりと雖調査の當夜當該地域に現在せざりしものは之を調査より除外したり。唯一の例外は海上に在りたる人口にして、調査の時期前に帝國の港灣を發し、途中寄港せずして調査の時期後四日以内に始めて帝國の港灣に入りたる船舶に在りたる者に限り、調査の時期に帝國の版圖内に現在したるものとして其の港灣の屬する地域の調査に加へたり。

人口總數 大正十四年十月一日午前零時、即ち九月三十日より十月一日に移る夜半に於て、我内地に現在したる人口の總數は59,736,822なり。之を大正九年の調査人口に比すれば3,773,769人を増加したるものにして、五年間の増加割合は六分七厘に該る。

大正十四年 人 口	大正九年 人 口	五年間の 増 加	増加割合
59,736,822	55,963,053	3,773,769	67%。

全國を北海道東北關東北陸東山東海近畿中國四國九州及沖繩の十一地方に大別し、人口分布を見るに關東は12,314,032にして最も多く、近畿の8,954,314之に亞ぎ、九州は8,524,953東北は6,159,298中國は5,145,303東海は5,098,403あり。其の他は北陸東山四國の三百萬以上、北海道の2,498,679沖繩の557,622とす。而して各地方の人口を前回調査の數字に比較するときは沖繩の13,950(二分四厘)の減少を除き、他の十地方は孰れも其の人口を増加したり。増加割合最も大なるは關東の一割七厘にして、近畿の一割、東海の八分三厘と共に全國の人口増加割合を超過す。其の他の地方を人口増加率の高きものより列擧すれば東北北海道東山九州四國中國北陸の順位となる。

地方別人口

地方区劃	人口		五年間の人口増加数 (△は減)	総人口 1,000中		五年間の人口増加割合 (△は減)
	大正九年	大正十四年		大正九年	大正十四年	
全 國	55,963,053	59,736,822	3,773,769	1,000.0	1,000.0	67%
北海道	2,359,183	2,498,679	139,496	42.2	41.8	59
東北	5,793,974	6,159,298	365,324	103.5	103.1	63
關東	11,127,995	12,314,032	1,186,037	198.8	206.2	107
北陸	3,847,265	3,947,803	100,538	68.7	66.1	26
東 山	3,216,582	3,362,449	145,867	57.5	56.3	45
東 海	4,709,419	5,098,403	388,984	84.2	85.4	83
近畿	8,142,801	8,954,314	811,513	145.5	149.9	100
中 國	4,970,003	5,145,303	175,300	88.8	86.1	35
四 國	3,065,679	3,173,966	108,287	54.8	53.1	35
九 州	8,158,520	8,524,953	366,433	145.8	142.7	45
沖 繩	571,572	557,622	△ 13,950	10.2	9.3	△ 24

更に人口を府縣別に見るに甚しき不同あり、首位を占むる東京の人口は末位の鳥取の約十倍に相當す。東京府の人口は 4,485,144 あり、之に亞くは大阪府の 3,059,502 なり。二百萬以上は北海道及兵庫愛知福岡の三縣、百萬以上は新潟静岡長野廣島鹿兒島福島神奈川茨城京都千葉埼玉熊本岡山長崎岐阜群馬三重愛媛山口栃木宮城及山形の一府二十一縣、七十萬以上は秋田大分岩手青森和歌山石川富山島根及香川の九縣、五十萬以上は宮崎徳島高知佐賀滋賀山梨福井奈良及沖繩の九縣にして、鳥取の 472,230 を最少とす。

前回調査後五年間に於ける異動を検するに、人口減少を示すは沖繩及福井の二縣にして、他は孰れも人口を増加したり。就中増加の大なるは東京の 785,716 大阪の 471,655 愛知の 229,732 にして、兵庫北海道静岡京都福岡の十萬以上順次之に亞ぎ、神奈川の九萬、宮城の八萬、廣島埼玉福島及新潟の七萬亦増加數の大なるものなり。而して人口増加の割合より見るときは東京の二割一分二厘、大阪の一割八分二厘、愛知の一割一分を其の著しきものとし、全國人口の増加割合六分七厘より大なるものは前記二府一縣の外、京都宮城静岡青森及神奈川の一府四縣なり。

人口密度 内地人口を總面積 24,718 方里餘を以て除するときは一万里 2,417 人(一方軒 157 人)に該り、前回調査に於ける 2,264 人に比

し 153 人を増加したり。

人口密度を地方別に見るときは關東の 5,891 人最も高く、近畿の 5,066 人之に亞ぎ、東海の 4,241 人は第三位に在り。而して沖繩九州は 3,000 人以上、四國中 國北陸は 2,000 人以上、東山東北は 1,000 人以上にして、最も低きを北海道の 437 人とす。

地方別人口密度

地方区劃	一方里に付人口		一方軒に付人口	
	大正九年	大正十四年	大正九年	大正十四年
全 國	2,264	2,417	147	157
北海道	412	437	27	28
東北	1,336	1,420	87	92
關東	5,324	5,891	345	382
北陸	2,367	2,429	153	157
東 山	1,742	1,821	113	118
東 海	3,917	4,241	254	275
近畿	4,607	5,066	299	328
中 國	2,420	2,506	157	162
四 國	2,519	2,608	163	169
九 州	3,004	3,139	195	204
沖 繩	4,099	3,999	266	259

更に府縣別に見るときは其の人口に大小あるが如く、人口密度にも甚しき高低あり。最も稠密なるは東京の一方里に付 32,289 人にして、大阪の 26,493 人之に亞ぎ、神奈川の 9,292 人は第三位に在り。福岡の 7,212 人、愛知の 7,077 人、香川の 5,853 人、埼玉の 5,655 人更に之に次ぐ。其の他は 4,000 人以上に京都兵庫長崎佐賀及千葉の一府四縣、3,000 人以上に沖繩茨城及静岡の三縣あり。三重愛媛廣島山口石川群馬岡山富山熊本栃木徳島和歌山滋賀鹿兒島奈良福井大分新潟宮城鳥取及山梨の二十一縣は 2,000 人以上、長野山形島根岐阜福島高知宮崎青森及秋田の九縣は 1,000 人以上にして、岩手は 912 人、北海道は 437 人に過ぎず。而して全國人口密度 2,417 人に達せざるものは奈良以下の一道十七縣なり。

體性 總人口を男女に別つときは男 30,013,109 女 29,723,713 あり、男の超過 289,396 にして、女 100 に對し男 101.0 の割合なり。之を前回調査の女 100 に付男 100.4 に比するとき、男超過の割合少しく増

加したり。

全 國 男 女 別 入 口

年 次	男	女	女 100に付男
大 正 九 年	28,044,179	27,918,874	100.4
大 正 十 四 年	30,013,109	29,723,713	101.0

而して府縣別男女人口は東京の女100に付男114を男超過の最も大なるもの沖繩の女100に付男92を女超過の最も大なるものとし、男の超過せるは東京外十五府縣、女の超過せるは沖繩外三十縣あり。男超過の府縣に在りては北海道神奈川大阪の女100に付男109京都長崎の同男104を其の割合著しきものとし、女の超過せる府縣に在りては滋賀鹿兒島の女100に付男94石川長野鳥取の同男95等を比較的著しきものとす。而して男女略等しきものを求むれば静岡山梨徳島及岐阜の四縣なり。尙男超過の十六府縣中岐阜を除くときは、他は何れも男の超過割合全國平均(女100に付男101)より高し。

市部郡部の人口(註一) 調査当日に於ける市の数は百一あり。

前回調査當時に於ける市は八十三(註二)なるを以て、五年間に十八市を増加したり。

百一市の中人口十萬以上を有する大都市二十一あり。第一位を占むるは大阪の2,114,804にして、東京の1,995,567之に亞ぐ。第三位は名古屋の768,558にして、京都の679,963神戸の644,212横濱の405,888更に之に亞ぐ。以上は世に六大都市と稱せらるゝものなり。上記六市に亞ぎては廣島の195,731を多きものとし、以下長崎函館金澤熊本福岡札幌仙臺吳小樽鹿兒島岡山八幡新潟堺の順序にして、熊本福岡岡山新潟及堺の五市は今次の調査に依り始めて十萬以上の大都市の列に入りたるものなり。而して六大都市の人口は前回調査に於て東京大阪神戸京都名古屋横濱の順位なりしが、今次調査の結果東京と大阪、神戸と名古屋は夫々互に順位を交換し、京都横濱は依然第四位及第六位に在り。

註一 本節に大正九年人口とあるは大正九年公定人口、即ち前回調査當時の區域に依る調査人口なり。
 註二 北海道及沖繩縣に於ける従前の區は市として計算す。

以上人口十萬以上の各都市に於ける人口の増減を見るに、東京横濱兩市を除くの外は孰れも人口を増加し、殊に大阪名古屋熊本福岡岡山等を増加の著しきものとす。但し急激なる人口膨脹が主として隣接地域の併合に依るものなきに非ず。試みに今次調査の結果に依る二十一市の人口を、前回調査確定人口及今次の調査に於ける市の境域に組替へたる大正九年人口に比較すれば下の如し。

人口十萬以上の市の人口

市	大正十四年人口	大正九年人口	大正十四年の境域に依る大正九年人口
大 東 京	2,114,804	1,952,933	1,768,295
阪 京 屋	1,995,567	2,173,201	2,173,201
名 古 屋	768,558	429,997	608,127
京 都	679,963	591,323	591,323
神 戸	644,212	608,644	608,644
横 濱	405,888	422,938	422,938
廣 島	195,731	160,510	160,510
長 崎	189,071	176,534	176,534
函 館	163,972	144,749	144,749
金 澤	147,420	129,265	136,792
熊 本	147,174	70,388	129,584
福 岡	146,005	95,381	122,935
札 幌	145,065	102,580	102,580
仙 臺	142,894	118,984	118,984
吳	138,863	130,362	130,362
小 樽	134,469	108,113	108,113
鹿 兒 島	124,734	103,180	103,180
岡 山	124,521	94,585	110,508
八 幡	118,376	100,235	102,828
新 潟	108,941	92,130	92,130
堺	105,009	84,999	89,675

人口十萬以上を有する二十一市の人口總數は8,741,237にして、總人口に對し一割四分六厘に該る、之に對する前回調査の數字は夫々十六市、6,753,598人、一割二分一厘なり。

上記人口十萬以上の市を除きたる八十市の中、今次の調査に於て人口七萬を越ゆるものは横須賀外十四市、五萬以上は甲府外十八市、四萬以上は若松(福岡)外二十二市、三萬以上は足利外十九市あり。而して三萬に達せざるものは丸龜尾道首里の三市なり。

市部人口の總計は12,896,850にして總人口の二割一分六厘に該り、之に對する郡部人口は46,839,972 即ち總人口の七割八分四厘を占

む。之を前回調査に於ける総人口中市部一割八分、郡部八割二分に對比すれば、市部人口は其の割合を大にしたり。

市部郡部人口

年次	總數	市部	郡部	總數 1,000 中	
				市部	郡部
大正九年	55,963,053	10,096,758	45,866,295	180	820
大正十四年	59,736,822	12,896,850	46,839,972	216	784

而して五年間に市部人口は二百八十萬、郡部人口は九十七萬の増加を示すと雖、前回調査後新に市制を布きたるもの及隣接町村を合併したる市あるを以て、今次の調査に於ける市郡の境域に依り組替へたる大正九年人口に比較すれば市部は百二十七萬、郡部は二百四十九萬の増加にして、五年間の増加割合は前者一割一分、後者五分六厘なり。

市部郡部に於ける人口増加

	大正十四年人口	大正十四年の現域に依る大正九年人口	五年間の人口増加	増加割合
總數	59,736,822	55,963,053	3,773,769	67%
市部	12,896,850	11,619,279	1,277,571	110
郡部	46,839,972	44,343,774	2,496,198	56

市部郡部に於ける男女の割合を検するに、市部人口 12,896,850 中男 6,685,713 女 6,211,137 男の超過 474,576 にして、女 100 に付男 107.6 に該る。郡部は總人口 46,839,972 中男 23,327,396 女 23,512,576 にして、女の男より多きこと 185,180 即ち女 100 に付男 99.2 なり。

市部郡部別男女人口

	男	女	女 100 に付男
總數	30,013,109	29,723,713	101.0
市部	6,685,713	6,211,137	107.6
郡部	23,327,396	23,512,576	99.2

更に人口十萬以上の都市に就て見るに二十一市の人口 8,741,237 中男は 4,604,635 女は 4,136,602 にして女 100 に付男 111.3 となり、市部平均女 100 に付男 107.6 に比し男超過の割合高し。但し二十一市の各に就き男女割合を見るときは鹿兒島岡山新潟金澤長崎及堺の六市は女の超過を示し、他の十五市は男の超過なり。

人口階級別市町村數及其の人口 全國の市町村數は市 101 町 1,532 村 10,386 あり。上記 12,019 の市町村を其の人口に依り十一の階級に分つときは下の如くにして、前回調査に於ける數字に比較し、市町村數は二千一人乃至五千人級以下の各階級及三萬一人乃至四萬人級に於て其の數を減じ、他の各階級に於て其の數を増し、人口は三萬一人乃至四萬人級以下の各階級に屬する人口の割合を減じて、四萬一人乃至五萬人級以上の各階級に屬する人口の割合を増加したり。

人口階級別市町村數及其の人口

人口階級	大正九年			大正十四年		
	市町村數	人口	人口 1,000 中	市町村數	人口	人口 1,000 中
總數	12,243	55,963,053	1,000.0	12,019	59,736,822	1,000.0
1— 500	128	36,419	0.6	82	26,103	0.4
501— 1,000	306	242,706	4.3	266	213,895	3.6
1,001— 2,000	2,358	3,764,804	67.3	2,279	3,640,515	61.0
2,001— 5,000	7,259	23,082,027	412.1	7,050	22,532,803	377.2
5,001— 10,000	1,639	10,821,175	193.4	1,733	11,470,200	192.0
10,001— 20,000	374	5,074,460	90.7	392	5,229,161	87.5
20,001— 30,000	78	1,806,555	32.3	78	1,807,232	30.3
30,001— 40,000	40	1,407,095	25.1	38	1,249,460	20.9
40,001— 50,000	20	889,096	15.9	31	1,381,300	23.1
50,001— 100,000	31	2,105,318	37.6	51	3,444,916	57.7
100,001—	16	6,753,598	120.7	21	8,741,237	146.3

年齢構成 總人口の年齢は零歳を最も多數とし、年齢高きに従ひ其の數を減ずるも、偶々例外なきに非ず。然れども 0—4 歳 5—9 歳 10—14 歳の如く、零歳より 99 歳迄を五歳毎 (100 歳以上は一括) に集めて二十一の年齢階級に區分するときは、低年齢級より高年齢級に至り規則正しく減少す、即ち我人口は所謂正常なる年齢構成を有するものなり。

總人口中各五歳級の占むる割合を見るに0-4歳は一割四分あり、之に次の5-9歳を加ふるときは二割五分にして、14歳迄を合して三割七分となる。更に次の五歳を加へ19歳迄をとるときは四割七分を示し、0-24歳にて實に總人口の五割五分に該る。而して80歳以上の生存者は總人口の八分にして、100歳以上の長壽を保つ者男48女139計187あり。男女人口各別に見るも各年齢級の割合には大差なく、男に在りては幼年級、女に在りては老年級の割合比較的に大なるを特徴とす。

各性人口1,000中各年齢級に在る者の割合

年齢級	總數	男	女	年齢級	總數	男	女
0-4	138	139	138	55-59	33	33	34
5-9	116	116	116	60-64	26	25	27
10-14	113	114	112	65-69	22	20	23
15-19	98	99	98	70-74	15	13	17
20-24	85	88	84	75-79	9	7	10
25-29	74	75	72	80-84	4	3	5
30-34	62	64	60	85-89	1	1	1
35-39	58	59	57	90-94	0	0	0
40-44	54	54	54	95-99	0	0	0
45-49	51	51	51	100-	0	0	0
50-54	41	41	41				

各年齢級に於ける男女の權衡を見るに、45-49歳級以下の各五歳級に於ては常に男の超過なるに對し、50-54歳級以上の各五歳級に於ては女多數を示し、而も年齢級の高まるに従ひ女超過の割合を増加す。但し各歳に就て云へば男の超過は51歳に終り、52歳以上の各歳は常に女の超過にして、83歳に於て女は男の二倍となる。蓋し我國に於ける出生兒男女の割合は常に男多く、概ね女100に付男104なるを以て、其の結果は當歳即ち零歳に於ける男女割合に反映す。而して零歳の乳兒死亡は男に多き爲次の1歳に於て男超過の度を減ずるも、2歳以後は女の死亡率常に幾分高きが爲却て男超過の割合を加ふ。而して中年以後男の死亡率上昇に伴ひ漸く男超過の度を減じ、遂に50歳を過ぎて男女其の地位を代へ、老年に至り更に女の超過を大にするものなり。然れども全數として男

の若干多數を保ち女の超過を見ざるは、海外移住が本來の人口構成を崩すの程度に至らず、且上記女子の中年に於ける死亡率の比較的高きに由るものなり。

人口の年齢区分は社會状態、産業状態の影響を受くるものなるが故に、各府縣に就て見るときは第十表に示すが如く何れも多少の差異あり、且各府縣市部と郡部との間にも亦自ら差異あるを免れず。試みに全國の郡部人口、市部人口、東京大阪兩市人口の年齢構成を全國總人口の年齢構成に併せて示せば下の如し。

人口1000中各年齢級に在る者の割合

年齢級	全國	市部	郡部	東京市	大阪市	年齢級	全國	市部	郡部	東京市	大阪市
0-4	138	120	143	107	112	55-59	33	27	35	25	26
5-9	116	92	122	82	81	60-64	26	19	28	18	17
10-14	113	104	115	98	95	65-69	22	15	24	12	13
15-19	98	130	90	144	136	70-74	15	10	17	7	8
20-24	85	114	77	133	122	75-79	9	5	10	3	4
25-29	74	91	69	96	103	80-84	4	2	4	1	1
30-34	62	71	60	74	78	85-89	1	0	1	0	0
35-39	58	62	57	65	65	90-94	0	0	0	0	0
40-44	54	54	54	55	56	95-99	0	0	0	0	0
45-49	51	48	52	47	48	100-	0	0	0	0	0
50-54	41	36	42	33	35						

配偶状態 總人口59,736,822中未婚は31,194,425有配偶は23,742,650配偶者に死別して現に獨身の者は4,029,211配偶者と離別して現に獨身の者は770,536あり。總人口に對する割合は未婚五割二分二厘にして人口の過半を占め、有配偶の三割九分八厘之に亞ぎ、死別離別は合して漸く八分に過ぎず。之を男女各別に見るに、男は女の場合に比し未婚の割合多く、他の三者の割合少し。而して女に在りては男の場合に比し、死別の割合大なるを注意すべき點とす。

配偶關係別人口

配偶關係	總人口	男	女	總數 1,000中		
				總人口	男	女
總數	59,736,822	30,013,109	29,723,713	1,000	1,000	1,000
未婚	31,194,425	16,739,639	14,454,786	522	558	438
有配偶	23,742,650	11,860,690	11,881,960	398	395	400
死別	4,029,211	1,078,371	2,950,840	67	36	99
離別	770,536	334,409	436,127	13	11	15

配偶状態を年齢(五歳階級別)と關聯せしめて觀察するときは、未婚は低年齢級に於て最も多く、年齢級の高きに伴ひ例外なく割合を減ず。即ち0-4歳、5-9歳の全部、10-14歳の殆ど全部は未婚にして、15-19歳に於て九割二分二厘あり、20-24歳に於て五割一分四厘に減じ、更に25-29歳に於て一割六分六厘30-34歳に五分四厘を示し、爾後高年齢級に至り益々割合を減じ、60歳以上に於ては一分に達せず。有配偶は10-14歳に於て極めて少く、15-19歳に於て漸く七分四厘に過ぎざるも、20-24歳に於て四割六分二厘を示し、爾後の年齢級に於て順次其割合を加へ、35-39歳に於て最高割合九割五厘に達す。而して之を分界點とし爾後の年齢級に於ては其の割合を遞減す。死別は100歳以上を除き、高年齢級ほど其割合多く、20-24歳に於て四厘、25-29歳に於て一分三厘を示すに過ぎざるも、70-74歳級以後の各年齢級に於ては常に同年齢級の半以上を占む。離別は20-24歳級乃至65-69歳級の各五歳級に於て常に二分餘にして、25-29歳に於ける二分七厘及50-54歳に於ける二分六厘を最高割合とす。

男女各別に配偶状態と年齢との關係を見るも、大體に兩者其の趨向を等しうし差異ある點を求むれば、未婚が五割を下る年齢級は男に於て25-29歳なるに對し女は20-24歳なること、有配偶が半數以上を占むる年齢級も同様男に在りては25-29歳なるに對し女は20-24歳なること、高年齢級に於ては有配偶の割合男に於て高く、有配偶が同年齢級の半を下るは女に於て60-64歳なるに對し男は80-84歳なること、死別は女に於て各年齢級共に男に比し高きこと等にして、是等は男女兩性の婚姻年齢、生存力、其の他死別後再婚の可能性に差異あるを語るものなり。

各性各年齢級1,000中未婚、有配偶、死別、離別の割合

年齢級	總人口				男				女			
	未婚	有配偶	死別	離別	未婚	有配偶	死別	離別	未婚	有配偶	死別	離別
總數	522	398	67	13	558	395	38	11	486	400	99	15
0-4	1,000	—	—	—	1,000	—	—	—	1,000	—	—	—
5-9	1,000	—	—	—	1,000	—	—	—	1,000	—	—	—
10-14	999	1	0	0	1,000	0	0	0	999	1	0	0
15-19	922	74	0	4	982	17	0	1	859	132	1	8
20-24	514	462	4	20	725	260	2	13	296	671	6	27
25-29	166	794	13	27	250	717	9	24	78	876	17	29
30-34	54	896	25	25	71	890	16	23	35	904	34	27
35-39	29	905	43	23	34	921	24	21	23	889	62	26
40-44	21	883	72	24	23	917	39	21	19	849	105	27
45-49	19	845	111	25	19	899	60	22	18	789	164	29
50-54	15	793	166	26	15	875	87	23	14	711	246	29
55-59	12	717	247	24	12	839	126	23	11	598	364	27
60-64	9	631	337	23	10	789	178	23	9	484	484	23
65-69	8	520	452	20	9	712	257	22	7	352	622	19
70-74	7	402	574	17	8	619	354	19	6	231	747	16
75-79	7	285	694	14	7	507	470	16	6	133	849	12
80-84	5	182	802	11	7	389	591	12	5	62	924	9
85-89	5	111	875	9	6	280	704	10	4	29	958	9
90-94	5	87	899	9	7	240	742	11	5	29	958	8
95-99	5	91	894	10	10	249	721	20	3	36	954	7
100--	16	128	850	6	42	354	604	—	7	51	935	7

各配偶状態に於ける男女の割合を検するに、未婚に在りては男多く、女100に付男115.8を示すも、他の三者に在りては何れも女多く、特に死別に於ては女は男の約三倍に該る。更に各五歳級毎に見るときは、未婚に在りては7-74歳級以下の各年齢級に於ては男常に女より多く、特に20-24歳、25-29歳及30-34歳に於て男の超過甚し。有配偶に在りては25-29歳級以下の各年齢級に於て女多きも、30-34歳級以上の各年齢級に於ては男の超過を示し、85-89歳級迄は男超過の割合を増加し、爾後の高年齢級に於て幾分超過割合を減ず。而して男の20-24歳級以上の各年齢級に於ける有配偶者の數は、各其の一階級下の年齢級に於ける女の有配偶者の數に略對當することを發見す。死別、離別に在りては各年齢級何れも女多く、特に死別に在りて女の超過大なりとす。蓋し死別、離別に女多きは女の再婚、特に死別後の再婚の困難を語るものにして、我人口動態統計の數字に見るも亦此の傾向あるを發見し得べ

し。

世帯 世帯總數 11,999,609 の中普通世帯 11,902,593 之に屬する人員 580,15,326 準世帯 97,016 之に屬する人員 1,721,496 あり、普通世帯は世帯總數の九割九分二厘、總人口の九割七分一厘を占む。而して一世帯平均人員は普通世帯 4.9 人、準世帯 17.7 人、兩者を通じて 5.0 人なり。府縣別に普通世帯の平均人員を見るに、世帯人員最も多きは山形の 6.0 人、最も少きは大阪の 4.3 人にして、全國平均と略等位なるものに宮崎福岡奈良及長野の四縣あり。而して全國平均より世帯人員多きものは前記山形の外、宮城岩手秋田青森福島新潟埼玉栃木靜岡群馬佐賀北海道熊本千葉富山茨城鳥取及山梨の一道十七縣にして、少きものは大阪の外、山口東京京都兵庫滋賀廣島岡山島根和歌山高知沖繩愛媛愛知鹿兒島福井香川三重神奈川徳島石川岐阜大分及長崎の二府二十一縣なり。